

2011年（平成23年）4月27日

各位



株式会社大広
総務局 広報部

大広「ちびファミ・ラボ」
育児中のママに対して、震災から1ヵ月後の意識を調査。

～育児中のママたちの生活意識の変化

気をつけていること・自粛していること・再開したこと 編～

株式会社大広（社長：高野功）は社内プロジェクト「ちびファミ・ラボ」※の調査の一環として、育児中のママを対象に東日本大震災に関する第2回緊急調査を実施いたしました。

東日本大震災から1ヵ月が経過し、直接の被災地ではないエリアでママたちの意識・生活がどのように変化をしたのか把握するために、「震災後、自粛していること・再開したこと」「震災後、気をつけていること」等について質問しました。その結果、被災していないエリアでも、育児中のママたちは震災直後からさまざまな事柄で自粛・休止をしており、1ヵ月経過した現在でもそれを継続している人が多いことがわかりました。震災は生活面でも意識の上でも大きな影響を与えています。

「ちびファミ・ラボ」では、これからも引き続き震災後をはじめとしたママたちの生の声を調査し把握することで、クライアントサービスや社会貢献の一環として活かしてまいります。

調査概要及び結果の概要は以下の通りです。

※ 妊娠中の夫婦（プレママ&プレパパ）、そして0～6歳の乳幼児の親（パパ&ママ）の育児に関する意識と行動を把握し、リアリティのあるインサイトと、データに基づいた提案を行うことで同領域のマーケティング活動を行う取引先のマーケティングソリューションパートナーを目指す社内プロジェクトです。

<調査概要>

- 調査方法：インターネット調査
- エリア：岩手、宮城、福島を除く全国
- 調査対象者：株式会社ミリオネット「聞かせてダイレクト会員」の20～40代の子育て中のママ

- 回収サンプル数：98S
- 調査実施日：2011年4月12日
- 調査項目：震災後、生活のなかで気をつけていること/食料品を買うときに気をつけていること/日用品を買うときに気をつけていること/地震で自粛や休止をしていたこと/自粛・休止をやめて再開したこと/地震の前後で生活を変えたこと

〔調査結果のポイント〕

- **震災から1ヵ月が経過しましたが、生活の中で気をつけていることがあるママは85%。特に食品購入にあたっては8割以上が気をつけていると回答しています。**
 1. 生活の中では、節電・節水、買占め・買いだめをしないなど、震災前よりも生活の中での自律意識の高まりがみられ、家族が安心して過ごせることを意識するママも
 2. 食品購入では、放射性物質の飛散・流出の影響で、産地を確認することが挙げられるが、同時に食品を無駄にしないよう、必要なものをだけを購入するという意見も多数

- **全体の7割のママが震災後、自粛・休止をしていた事柄がありました。遠出をしない、日常生活の中で節電をするといった生活を送っていたことがわかります。**
 1. レジャーの自粛が大多数。家からできるだけ離れたくない意識が浮き彫りに
 2. 電力不足を考えての節電

- **自粛・休止していたことを再開した人は全体の4割。再開したのは「レジャー」や「外食」。引き続き自粛・休止をしているママが半数以上にのぼります。**
 1. 全体としては自粛・休止の継続が半数以上
 2. レジャー・外食は再開したが、「節電」や「買いだめしない」は今後も継続したいと考えているママが多数
 3. 震災を機に暮らし方を見直し、変えようとしているママも

ママ達は、震災後の制約のある生活の中で「本当に必要なもの」「無駄なもの」について考え、生活スタイルを見直し始めました。また、家族の安全・健康を守るために、正確な情報を収集したり、できるだけ安全な商品を選ぶなど情報行動、購買行動にも変化が現れています。

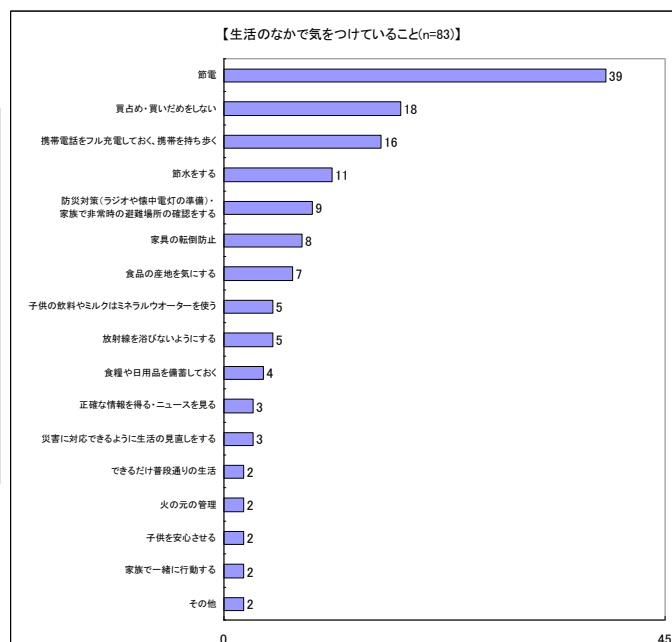
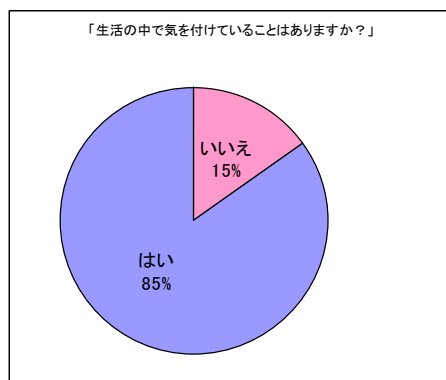
大広は、「ちびファミ・ラボ」をはじめ、様々な調査・分析を行うことにより、これからの市場の変化や動向を展開してまいります。

〔調査結果詳細〕

■ 震災から1ヵ月が経ちました。育児中のママに「生活の中で気をつけていることの有無」と、その内容を聞きました。

震災後1ヵ月が経過しました。生活の中で気をつけていることの有無とその内容を尋ねました。気をつけていることが「ある」と答えた人は依然として多く、85%にのびりました。具体的には「節電」、次いで「買占め・買いだめをしない」という回答が多くあがりました。

また、緊急時に備えて「家族と一緒に行動する」や「オムツ、ベビー用品などの生活用品は、非常時に困らないように常に準備しておく」や「正確な情報を得る・ニュースを見る」という声もあがっていました。

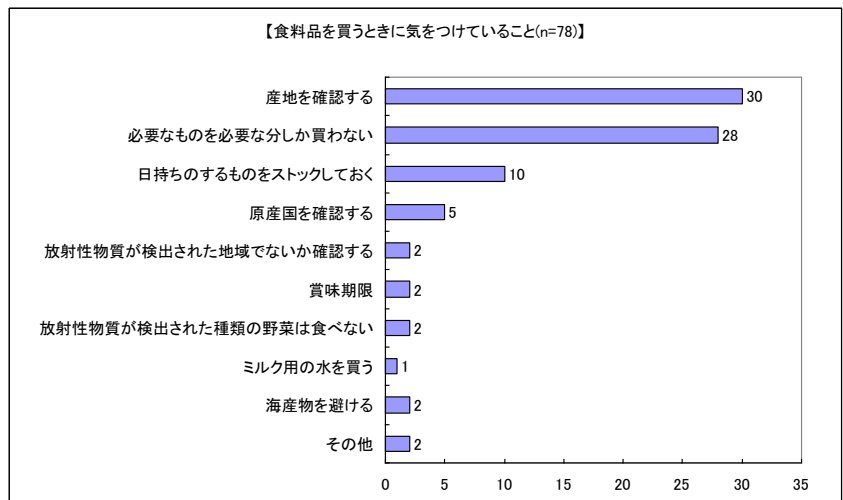
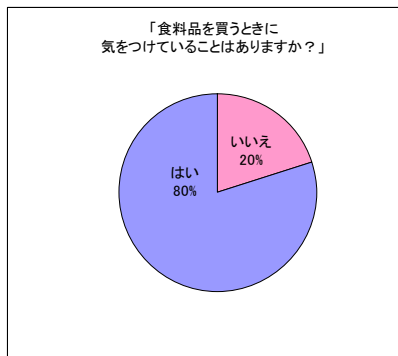


※気をつけていることがあると回答した83名の自由記述を分類。

■ 震災後、ママたちが食料品を買うときに気をつけていることの有無とその内容を尋ねました。(自由回答)

食料品を買うときに気をつけていることがあるかを尋ねたところ、8割の人が「はい」と答えました。具体的には「産地の確認」をするという回答が最も多く、放射性物質の飛散・流出で出荷停止になっている食品もあるため、食品の産地にママたちが敏感に反応していることがわかります。

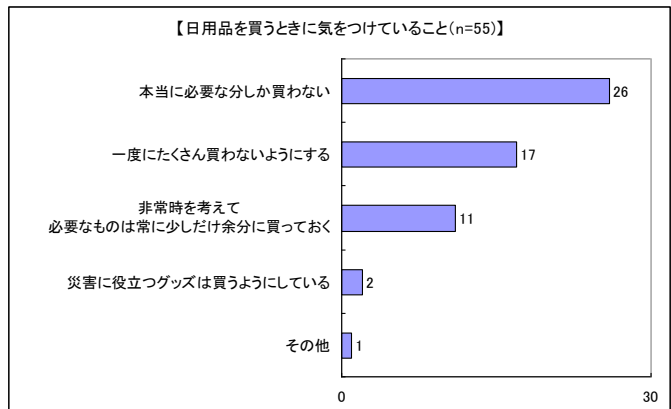
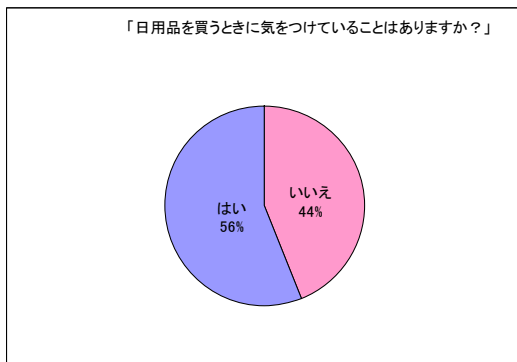
また、計画停電への対応で、必要な食品を使いきれの分のみ購入する、という声もあがっており、ママたちは、停電で冷蔵庫・冷凍庫が活用できない時も食品が無駄にならないよう、賢く対応していることがわかります。



※自由回答の実数カウント

■ 震災後、ママたちが食べるもの(食材選び・調理方法・保存など)、飲むものに関して意識していることを尋ねました。(自由回答)

日用品を買うときに気をつけていることを尋ねたところ、5割以上の方が気をつけていることが「ある」と答えました。その中で最も多かったのは「本当に必要な分しか買わない」「一度にたくさん買わないようにする」という回答でした。震災時、被災地以外でも買占めがおこり、日用品が入手できない状況がありました。それに対してママたちは非常時にあわてないように、必要なものを必要な分だけストックしておくことで対応し、買占めをしないように行動しようとしていることがわかります。

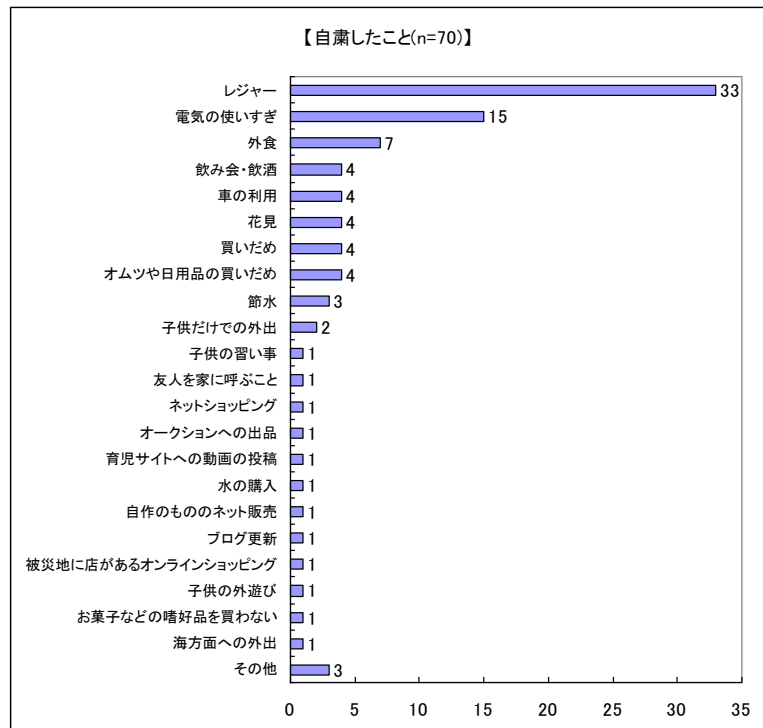
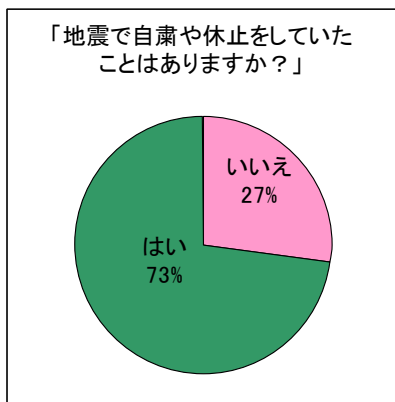


※自由回答の実数カウント

■震災後、地震で自粛や休止をしていたことはあるかを尋ねました。(自由回答)

震災で自粛や休止をしていたことを尋ねたところ「レジャー」という回答が最も多く、春休みに旅行などの計画をたっていたものの中止したという声が多く出ました。またレジャーだけでなく、外食や飲み会、花見を自粛・休止をしたという声もありました。

また、数は少ないのですがブログの更新、オークションへの出品や、育児サイトへの投稿などを自粛した、という声もあがっていました。日常の中で楽しんでいたネット上の活動も、震災後は楽しむ気分ではなかったのだと思われます。

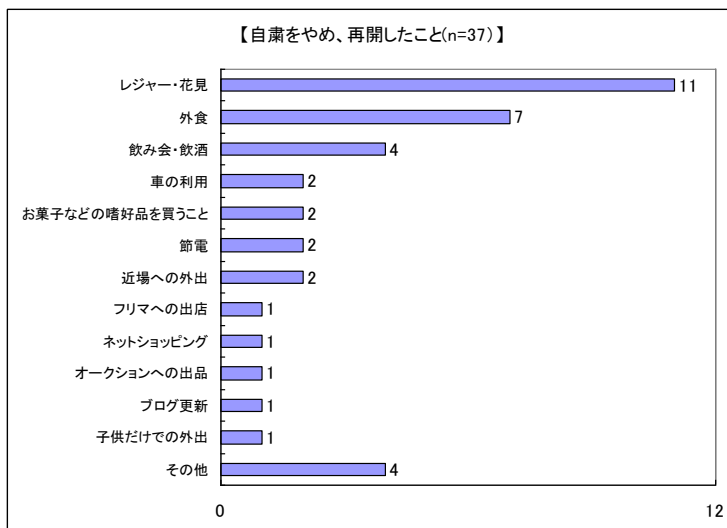
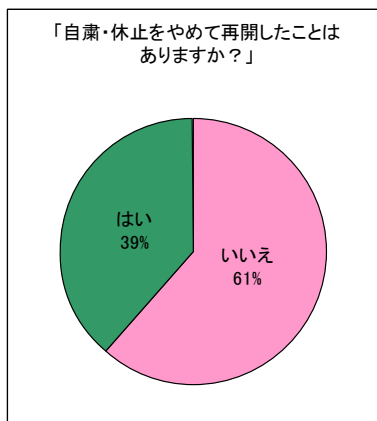


※自由回答の実数カウント

■ ママたちが自粛・休止をやめて再開したことの有無とその内容を尋ねました。

震災後、自粛や休止をしていたことで再開したことを聞いたところ、「再開した」という人は約4割でした。半数以上の人は生活の中での「自粛・休止」をまだ続けていることがわかります。

再開した事柄では「花見・レジャー」次いで「外食」があげられました。被災地以外では、少しずつ自粛や休止をやめた人も出始めていますが、まだまだ以前の生活・意識に戻ってはいないことがわかります。



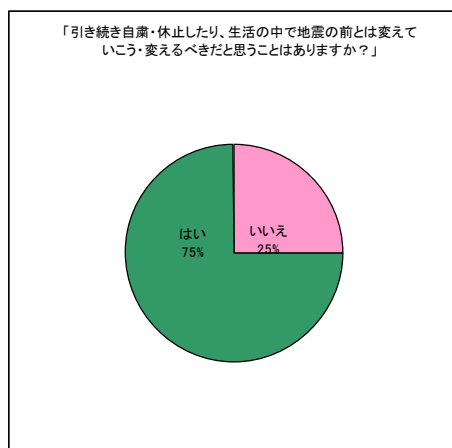
※自由回答の実数カウント

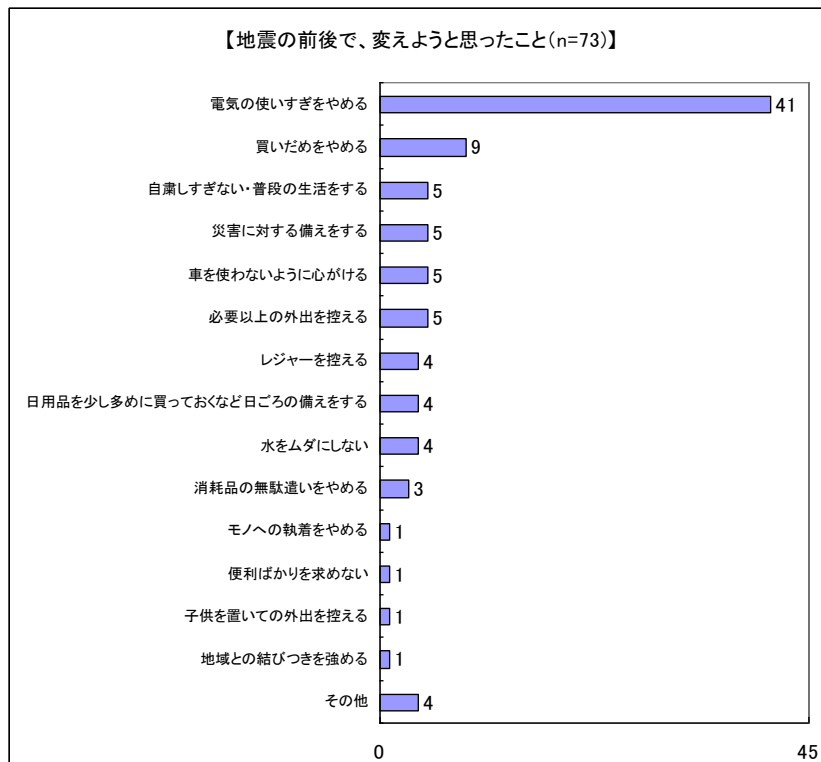
■ 地震の前と変えていこう・変えるべきだと思うことの有無とその内容を尋ねました。(自由回答)

生活の中で地震の前とは変えていこう・変えるべきだと思うことはありますか？という設問に対し全体の4分の3が「はい」と答えており、震災を機に、意識が変わったことがわかります。

具体的には「電気の使いすぎをやめる」「買いためをやめる」などがあげられました。また「便利すぎる生活を求めない」などの声もありました。

震災後の制約された生活を送る中で、ママたちは生活の中で「必要なこと」「あまり必要でないこと」を自分なりに判断し、生活スタイルを見直し始めたといえます。





以 上

●この件に関するお問合せは下記までお願いいたします。

株式会社大広 総務局広報部 遠藤、長谷川

TEL : 03-6364-8601